

馬に関する情報提供サービス案～未来のホースマンを育てるために～

只石 美由紀

日高町立門別図書館郷土資料館

1. はじめに

北海道の日高地方は日本有数の馬産地である。ジャパン・スタッドブック・インターナショナルがまとめた「地域別生産頭数統計」によると、2016年の日本のサラブレッド生産頭数 6,903 頭のうち、約 8 割に当たる 5,453 頭が日高地方の 7 町で生産されている。

さらに、我が町日高町は、全国各地で開催されている地方競馬の一つ、ホッカイドウ競馬唯一の競馬場・門別競馬場を有している。

しかし、馬産地でありながら住民が馬と気軽に触れあえる場所は少なく、馬産業関係者や一部の競馬ファンを除いては、馬への関心は高くない。

また、若者の雇用環境が悪化しているのにも関わらず、多くの牧場は慢性的に人手不足である。

このレポートでは、図書館が馬産業や馬に関する情報を収集・整理・提供することで、地域の子供の馬への関心を高め、馬産業の担い手不足を解消する一助となるための、新たなサービスを提案する。

2. 担い手不足の一因

馬産業の担い手不足の一因は、馬に関する情報の不足によるものではないだろうか。子供向けの馬に関する図書の発行点数は少なく、馬学や乗馬が学べる学校があるというような情報も、必要な人に行き届いているとは言えないだろう。

若者が就職活動をする時に何をするか考えると、まずはインターネットで情報を集めるだろう。Google で就職情報を検索するときに入力するキーワードは、その人がどのような職業を認識しているかによって変化する。

馬に親しみがなく、馬に関わる仕事が世の中に存在することを知らない若者がキーワードに「馬」と入力するとは考えられない。

裏を返せば、馬に関する情報が記憶にインプットされていれば、将来の職業の選択肢の一つとして認識されるのではないだろうか。

以下に馬の情報に触れたことで、馬産業で働いている方の例を挙げる。

坂口誠司（スチールカメラマン）

「とある書店で、偶然に手にした『優駿』¹が、その後の人生を大きく変えた。「その時は北海道が馬産地ということすら知らなかったんですが、『優駿』を初めて見て、サラブレッ

ドの美しさに惹かれましたね。それで、何となく競馬のカメラマンがいいかなと」
(メディアポート編 2006年『ケイバノシゴト。』メディアポート)

板宮未起（白井牧場）

「馬に興味を抱いたのは『風のシルフィード』という漫画でした。まだ小学校低学年だったので内容はよく解りませんでした。とにかくおもしろくて夢中になって読んでいた記憶があります。」

(競走馬生産・育成牧場就業応援サイト BOKUJOB²より引用)

3. インターネット上の就職情報源の現状

馬産業への就職情報源としては「BOKUJOB」というウェブサイトがある。競走馬育成協会を中心とした5団体で構成される牧場就業促進事務局が運営するもので、馬の生産育成牧場の仕事に関する情報や、求人情報を提供している。競走馬育成協会の事業報告によると、平成26年から28年にかけての年間延べ利用者数は約15万人～16万人で、安定したアクセス数を獲得している。

「BOKUJOB」は牧場への就業情報は充実しているものの、広く馬に関わる産業への就職情報を提供するものではない。

例えば、装蹄師や馬具職人、馬専門歯科医など、馬に関わる仕事の情報がまとまっているサイトは見つけることができなかった。

4. 子供向け事業の現状

日高地方では、子供が馬に親しむための事業が行われている。以下に挙げた例は、参加資格が特定の町の住民に限定されないものだが、各町でもその町の住民のみを対象とした様々な事業が開催されている。

どの事業も日高らしい魅力的なものではあるが、一年を通じて定期的に行われるものではなく、日高に住む子供がいつでも好きな時に馬の情報にアクセスできる環境は整っていない。

日高振興局主催

・「ひだか馬の絵コンテスト」

小学生が馬の絵を描くことを通じて馬への親しみや関心を持ってもらい、そのことにより、日高の馬に関わる地域文化を育てることを目的とする。日高地方の7町と東胆振地域に住む小学生が対象。入賞作品は翌年のカレンダーに掲載される。

・「馬文化出前教室」

日高地方の馬に関連する団体と協力し、馬に関連する授業を小学校で行う。講師は

育成牧場の職員など、馬に関する仕事に就くプロの方。地域の将来の担い手である児童に「馬」に関する理解を深めてもらい、地域特有の馬文化を、より地域に根ざしたもの、誇れるものとして定着させ、個性的で魅力ある地域づくりにつなげていくことを目的とする。平成27年度は日高管内の4校で5回実施。

ホッカイドウ競馬主催

・「馬の文化祭」

門別競馬場で11月3日文化の日に開催されるイベント。グッズの抽選会や地域のグルメが楽しめるブースの他、子供向けのイベントも人気がある。ファミリー限定の競馬場内ツアー、競馬場内のはたらく車展示、ばん馬とのふれあい、ちびっこジョッキーによるポニーレースなど。

5. 図書館で提供している馬に関する情報の現状

日高地方の各図書館では地域の産業に関わる資料として、馬に関する資料を積極的に収集している。関連資料は図書館の分類上4門、6門、7門などに分散することから、馬関連資料を別置している図書館も多い。

私の勤務する日高町立門別図書館郷土資料館でも、馬関連資料は「馬の本コーナー」として別置している。また、新聞・雑誌コーナーでも馬に関する資料を収集している。

馬に関する資料は、一般の書店で流通しているものもあるが、出版者が直接販売しているものや、販売はせずに関係者に配布される資料が多く、出版情報を得ることが難しい。

子供向けの資料は特に少なく、ヨーロッパやアメリカなど乗馬が盛んな国では子供が読めるものが多数出版されているのだが、日本語に翻訳されたものは非常に少ない。

収集した馬関係資料のほとんどが大人向け資料のため、馬の本コーナーは一般図書コーナーにあり、小学生が図書館へ来館した時に自然と目に入る場所ではない。

また、4節で挙げたような事業の情報や、その際に使われた資料なども収集されていない。

6. 学校図書室の現状

日高町内の小・中学校図書室には専任の学校司書がないため、どの学校でも担当の先生が資料の収集・整理に苦勞されている。

選書については、町内には大きな書店がないため、現物を見る機会は少なく、出版社から送付されるカタログから選ぶことが中心となっている。

そのため、一般書として出版される図鑑などは、選書から漏れがちである。

また、図書として一般に流通していないものを収集・整理することは、本来の業務と兼務して図書室を担当している先生には、時間的に不可能である。

7. 子供への馬に関する情報提供サービス案

以上の現状をふまえて、地域の子供が馬に関する理解を高め、馬に関連する職業を認識してもらうための図書館サービスを提案する。

(1) 図書館の児童図書コーナー内での子供向け馬の本コーナー設置

まず初めに、図書館内での取り組みとして、既存の一般向け馬の本コーナーだけでなく、子供の目に入りやすい児童図書コーナーへ馬の本コーナーを設置することを提案する。

収集する図書は、児童書として出版されている馬の本だけでなく、一般書として出版されている図鑑なども子供が見て楽しめるようなものであれば収集する。

マンガは特に馬に興味を抱いていない子供も手に取りやすいため、内容を確認の上、積極的に収集する。

当館の書架の配置上、大人も子供も行きやすい場所にコーナーを設けることが難しい。必要な資料は、既存の一般向け馬の本コーナーと児童向けコーナーの両方に複本で備え、いつでも誰でも馬の情報に触れられる環境を整備することが必要である。

図書に限らず、馬に関する仕事については「BOKUJOB」などの、インターネット上のサイトに有益な情報があるので、子供が読めるようにフリガナを付けて紙に印刷したものを作成するなどして、コーナーに設置する。馬関連の雑誌や、無料で配布されている広報誌等にも仕事に関する情報が掲載されていることがあるので、クリッピングして仕事に関する情報をまとめる。

馬に関することが学べる学校のパンフレットなども馬の本コーナーに置くことで、将来の職業選択肢の一つとして馬関係の仕事を認識してもらう。

(2) 町内の小中学校図書室での馬の本コーナー設置

図書館と学校とは移動図書館や本の団体貸出等で頻繁に連絡を取り合っており、良好な関係が築かれている。

今後の展開として、学校図書室支援サービスの一環で、学校図書室内で馬の本コーナーを設置することを提案する。

図書館が教育委員会の部局であることから、馬＝競馬＝ギャンブルの視点ではなく、地域の産業としての視点、馬文化としての視点から資料を整備することが可能である。

(3) 関連団体が主催する事業の情報収集及び連携

関連団体が主催する事業について、図書館が情報を収集・整理することにより、

誰でも情報にアクセスできる環境を整備する。

各学校で行われている出前授業の資料なども、図書館で収集することにより、他の学校の子供たちや、教員へも情報を提供することができる。

馬の絵コンテスト優秀作の画像データを収集して冊子にすることで、いつでも過去の作品を見られるようにする。

(4) 日高地方の他の図書館との情報共有・連携

5節でも述べた通り、馬関係の資料は入手しづらいものが多いため、充実したコーナー作りのためには、効率的に情報を集める必要がある。

それぞれの馬産地には、馬関連団体の施設が点在しており、その地域にある団体の情報については、その地域の図書館が情報を持っている。

他の馬産地の図書館と情報を共有して連携することで、お互いに情報収集のための時間を短縮し、資料を充実させることが可能となる。

将来的な資料保存の面からも、連携を深めることは重要である。

8. 図書館が実施主体となるメリット

図書館の特徴は、誰でも無料で利用できる公的な施設だという点である。

誰でも利用できるのも、図書館には様々な年齢・職業の人が来館する。馬に関連する団体が何らかのイベントを行った場合、馬好きの人にはアピールできるが、図書館ではそれ以外の人に情報を届けることができる。

例えば図書館で馬の絵の展示を行った場合、馬が好きな人だけでなく、絵が好きな人や、特に馬を意識していない人が偶然目にすることもあるだろう。

また、無料の公共施設であるということは、どの団体や企業とも利害関係がなく、営利を目的としないため、学校現場へ入りやすいというメリットがある。

さらに、図書館では日常的に資料の収集・整理を行い、必要な人へ情報を提供できるようにしているので、新たに窓口を設けるなどしなくても、既存のシステムの中で情報の収集・提供が行えるのもメリットと言えるのではないだろうか。

9. おわりに

本稿では、馬産業の担い手不足を解消するため、子供たちが馬に対する理解を深め、将来の職業選択肢の一つとして馬に関する仕事を認識できるよう、馬に関する情報提供サービスを提案した。

このレポートを書くにあたり様々な資料を読み、特に印象に残ったのは「馬づくりは人づくりから」という言葉である。図書館は馬を育てることはできないが、学ぶ環境を整えることで人を育てることができる施設である。

今後は実際に馬産業に関わる人へ、直接役立つようなサービスも考えていかなくてはならない。

参考文献

ジャパNSTADブック『2016年地域別生産頭数』

佐藤文夫『馬づくりは人づくりから』馬事通信 2010年11月1日号

メディアポート編 2006『ケイバのシゴト。』メディアポート

牧場就業促進事務局 『競走馬生産・育成牧場就業応援サイト BOKUJOB』

<http://bokujob.com/>

日高振興局『日高発馬文化情報総合サイト 馬文化ひだか』

<http://www.hidaka.pref.hokkaido.lg.jp/ts/tss/umabunka/>

1 中央競馬 PR センター発行の競馬雑誌。

2 <http://bokujob.com/work/senior/itamiya.html> (アクセス日 2017年8月27日)